

長万部中学校3年 齊藤翔子さんが 少年の主張全道大会へ

このたび、森町で行われた少年の主張渡島支庁地区大会で、長万部中学校3年の齊藤翔子さんが「鍵から考える」と題した主張を発表し、最優秀賞を受賞しましたので、みなさんに紹介いたします。

「鍵」から考える

長万部中学校 齊藤翔子

みなさんの学校では、特別教室に鍵がかかっていますか？

私の通う学校では、特別教室に鍵がかかっています。なぜ鍵がかかっているのか？そのことについて、私は最近まで深く考えたことはありませんでした。

しかし、先生から「以前の学校では鍵をかけていなかった」という話を聞いて、私は疑問を感じるようになったのです。そして、自分自身のある経験を思い出しました。

ある時、私は特別教室に忘れ物をしました。すぐに取りに戻ったのですが、すでにその教室には鍵がかかっています。そのため、職員室まで行き、先生を呼んで鍵を開けてもらわなければなりません。この時、私は「ちょっとしたことだけど、とても不便だな」と感じたのです。この経験を踏まえ、私は特別教室に鍵をかけない方がいい。かけないことで生徒にとって「より便利で快適な環境ができる」と考えるようにな

りました。

しかし、鍵をかけることで生まれるメリットも考えられます。中でも最大のメリットは、鍵がかかっていると、生徒が特別教室に入って危険なことをするのを防ぐことができること、生徒の安全を確保できることです。

そう考えると、鍵をかける方が良いと考える人もいるかもしれません。確かに安全面の問題を考えれば、鍵をかけるのは確実な方法です。しかし、実はこの問題は、鍵をかけるなくても解決できると私は思うのです。

問題の解決のために本当に必要なのは「鍵」なんかではなく、お互いの信頼関係なのではないでしょうか。

学校で生活する生徒のみんなが、しっかりと気をつけて生活するだけで、危険を防げるはず。そして、その生徒を先生が信頼し、また、生徒もその信頼に応えるようにしっかりと行動することができるとしたら、特別教室に鍵など必要なくなるはず

です。

私は、生徒と生徒、生徒と先生が信頼し合い、鍵を開けておいても安全だと言いつけるような学校を作っていきたいと思えます。

ところで、この「信頼」という言葉をキーワードにして考えてみると、他にもいろいろなることが見えてきます。

例えば信頼があれば、特別教室の鍵だけでなく、校則ももっと少なくできるのではないのでしょうか。校則は守らない生徒がいるから作られる規則です。つまり、生徒一人ひとりがモラルを持ち、みんなのことを考えて行動できれば、校則のほとんどが必要なくなるのです。

残念ながら、私の学校では昨年、校則が追加されました。一部の生徒が自分勝手なことをしたからです。このように、生徒がもし一人でもみんなの迷惑を考えずに行動してしま

えば、当然規則が増えていきます。そして、直接関係のない人々をも束縛し、せつかくの楽しい学校生活もつまらぬものとなってしまふのです。校則だけではありません。

世の中にある様々な規則についても、同じことが言えます。みんなにとってより快適な環境を作っていくためには、社会で生活する一人ひとりが真剣に考え、行動することが必要なのです。そうすることによって、自然と規則という束縛が解かれていくのではないのでしょうか。

理想を掲げるのは簡単ですが、その理想を実現させるのは難しいことです。また、今まで続いてきたあらゆるシステムを変えるのも、そう簡単なことではありません。しかし、この社会に生きる私たち一人ひとりの努力があれば、決して無理なことではないはず。

みんなが「鍵」や「規則」に縛られない考えを持ち、毎日快適で有意義なものにしようとする努力を続けること。それが、これからの社会を生きる私たちの課題なのではないのでしょうか。

